広告　企画・制作／読売新聞社広告局

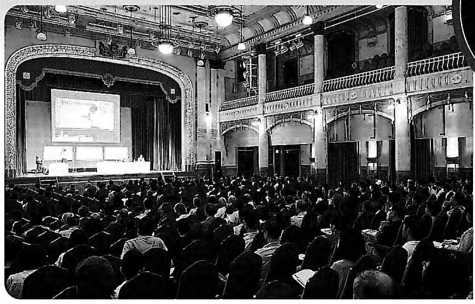
主催：佛教大学　後援：読売新聞社、公益財団法人 私立大学通信教育協会

～変革の時代、求められる学びとは～

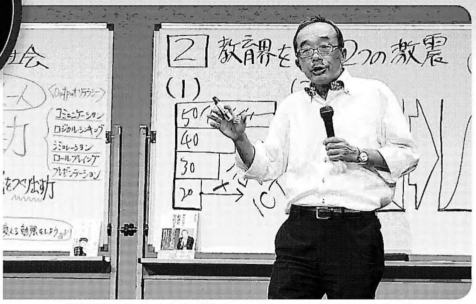
教育と共育

佛教大学通信教育課程シンポジウム

BUまなび隊 in 大阪



「BUまなび隊in大阪　佛教大学通信教育課程シンポジウム『教育と共育』」が8月30日、大阪市北区の大阪市中央公会堂で開かれました。教育改革実践家の藤原和博さんが基調講演し、教育の未来について「情報編集力」を軸に展望。パネルディスカッションでは、ネット社会の進展や大学入試改革など激変に向き合う教育の姿を考察し、白熱した議論に、会場を埋めた約600人から、何度も拍手が湧き起こりました。



情報編集力で、社会に役立つ智恵を

基調講演　今、教育にできることは何か？

成熟社会、アクティブラーニングで転換を

◎**藤原 和博氏**（教育改革実践家・元東京都杉並区立和田中学校長）

日本が20世紀の成長社会から21世紀の成熟社会に移って久しい。低成長が続く中、大量生産を支えた「みんな一緒」のビジネスシステムは廃れ、「それぞれ一人一人」に焦点を当てたビジネスが台頭して、様々な社会現象を引き起こしています。電話は固定電話からスマートフォン（スマホ）になり、結婚式の引き出物は現物からカタログへ、ランドセルは色も形もとりどりです。

教育も変わらざるを得ません。「みんな一緒」の時代には、正解を、速く当てる「情報処理力」が成功のカギでした。成熟社会に万人に通用する正解はなく、その都度、「納得解」をつくり出さなければならない。必要なのは、自分の知識、技術、経験を総動員し、他者のそれと混ぜ合わせる「情報編集力」です。

藤原 和博氏

東京大学卒業後、リクルート入社。2003年から5年間、東京都で義務教育初の民間校長として、杉並区立和田中学校長を務めた。民間塾と連携した「夜スペ」など、革新的取り組みで知られる。

中学国語の「走れメロス」を例にすると、メロスの心情を4択5択で解答するのが従来の授業です。これでは仮説を自ら設定し、試行錯誤して解に至る力は身に付かない。情報編集力を鍛えるには、主体的に考えるアクティブラーニングが有効です。「メロスが間に合わなかったら」と前提を変えて議論する。あるいは「本当にメロスは走ったのか」と、疑って検証する。メロスの移動速度を算出し、「歩いていた」と研究発表した中学生がいたが、企業がゲットしたいのはこういう人材でしょう。

新大学入試改革は、基礎学力の判定は高校時代に済ませ、入試では情報編集力を重視する方向です。それに応える付加価値の高い授業をどう実現するか、各学校のガバナンスが問われます。佛教大学では、知識を「生きる力」に転換する「転識得智」を提唱しています。アクティブラーニングであり、めざす教育の未来です。

佛教大学シンポジウムQ&A

パネルディスカッションでは来場者からの質問に藤原氏が答えました。

Q　学生「点数で表せない情報編集力を、入試で判定できるのですか」

A　藤原「高校の推薦や面接、小論文などで評価すると考えられますが、公平性の確保が課題です。各大学がどう知恵を絞るかです」

Q　小学校教員「タブレット端末を子どもに持たせたら、遊びに使うのでは」

A　藤原「タブレットやスマホを自由に操るのは子どもたちの新しい才能なので、大いに活用すべきです。学習意欲喚起に効果があることは、武雄市で実証済みです」

パネルディスカッション　「教育と共育」～変革の時代、求められる学びとは～

惜しみない知識の提供、「つながる力」養成

パネリスト
◎藤原 和博氏
◎田中 典彦（佛教大学学長）
◎藤松 素子（佛教大学 生涯学習機構長 社会福祉学部教授）

コーディネーター　◎原 清治（佛教大学 教育学部教授）

原　教育の変わるべき部分と、変わらざる本質に迫りたい。社会の変化は通学、通信の学生にどのように表れていますか。

田中　学生の本質は変わっていないが、マークシート方式のテストが導入されてから、クイズ的な知識が重視され、学生が指示待ちになった感はあります。詰め込んだ知識をいかに社会で役立つ知恵に転換するかは、在学中の大きな課題です。本学が「知識を転じて智恵を得る」という仏教の教え、「転識得智」を掲げるゆえんです。

藤松　佛教大学の通信教育課程は60年以上の歴史があり、学生は変わらず勉強熱心です。ただ、最近は資格を効率的に取得しようとする傾向が強く、多様な学びや教養に目を向ける余裕がなくなっていると感じます。

原　余裕がないといえば、小中学校の教員は、学習指導要領に縛られ、部活指導などで多忙です。

藤原　だからこそ、基礎学力にあたる教科指導は効率化して、授業にディベートなどを取り入れ、主体的、実践的な「情報編集力」の強化に時間を割くべきです。社会が求めるのは、国算理社の学力よりも、コミュニケーション力やプレゼンテーション力など、応用力だからです。10歳までに思いきり遊び、思い通りにいかない〝予定不調和〟にぶつかりながら、対応力を培うことも大事です。

田中　基調講演で「走れメロス」の例が出ましたが、登場人物の気持ちを探るには、登場人物になりきって演じるロールプレイをさせるといい。思わぬ予定不調和が現出し、情報編集力が鍛えられるでしょう。

藤原　「ごっこ遊び」に通じる優れた教育法です。今の子どもはロールプレイングゲームに慣れており、教育に生かさない手はありません。

原　基礎学力習得を効率化する方法は。

藤原　スマホやタブレット端末の活用が切り札になるでしょう。ビデオ・オン・デマンド（VOD）で習熟度に合わせた補習ができ、知識分野を自宅学習に回せます。動画は学習の動機付けにもなります。佐賀県武雄市で、小学生一人一人にタブレット端末を貸し出し、動画で予習させたところ、全員が実行しました。

原　教育の「変わるべき部分」ですね。新たな学びは通信教育にも有効でしょうか。

藤松　すでにビデオやインターネットを教材に取り入れており、VODも視野に、ハード・ソフトの環境整備を急いでいます。本学の通信教育は、一定期間、キャンパスに通うスクーリングに特色があります。テキスト履修科目のリポートに添削指導を行うなど、一方通行にならない工夫をしており、新たなツールと組み合わせて双方向性を高めたいですね。

藤原　通信教育は生涯学習と結びつき、役割が増していく分野です。かつて、日本人の人生観は、ピークが一度きりの「富士山型一山主義」だったが、人生100年時代には、仕事の山を下りた後も、趣味にボランティアにと、ピークが続く「連峰型」の人生観を持つべきです。数々の頂を踏破するには、学び続ける環境が欠かせません。

田中　人生の山々は、言い換えれば夢の連峰です。子どもの頃の果たせなかった夢がすそ野をつくります。夢を実現に導く営みが教育であり、持てる知識とノウハウを惜しみなく布施（分け与える）する人が教育者です。布施の仕方が変わっても、人を幸福にする教育の本質は変わりません。

藤松　大学が「共に育つ場」であることも変わらない本質です。本学の通信教育課程には、全国に43支部の学友会があり、在学生や卒業生が学び合う場になっています。こうした「顔の見える」関係を守りつつ、新たなニーズに応えていきます。

藤原　ネット社会が進展すれば、学校は実験や競争など「人が集まらないとできないことをやる場」になり、教員の役割は人間にしかできないものに特化するでしょう。学びの魅力が人から人へ伝染するものである限り、スマホが生身の人間に取って替わることはありえません。

原　まさに佛教大学がめざす「人をつなぐ力」「つながる力」です。新しい潮流を見据えつつ、「共育」を推進していきます。

田中 典彦

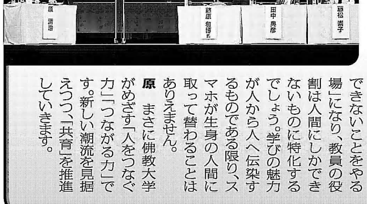
大阪教育大学教育学部卒。佛教大学文学部教授、仏教学部教授、副学長を経て、2015年4月から現職。専門はインド六派哲学、原始仏教思想、仏教と自然。

藤松 素子

立命館大学大学院博士後期課程修了。博士（社会学）。2009年から佛教大学社会福祉学部教授、12年から生涯学習機構長。専門は社会福祉理論、地域福祉論。

原 清治

神戸大学大学院博士後期課程修了。博士（学術）。2005年から現職。専門は教育社会学、学校臨床教育学、教員養成。



「ぶったん」

開学100周年事業の一環として、公募により誕生した佛教大学のマスコットキャラクターです。阿弥陀さまやお釈迦さまをモチーフとして、佛教大学の築いてきた伝統と新たな価値（イメージ）を感じていただけるキャラクターとしてデザインされています。

さがそう、あなたの学び

1953年に関西で最初の通信制大学としてスタートした佛教大学通信教育課程。
現在、大学院課程4研究科12専攻・大学課程6学部10学科を開設し、
あわせて教員免許状や各種資格の取得などキャリアアップのための課程やコース、
さらには教養を深めることを目的としたコースを開設するなど、
だれでも、どこでも、いつからでも、いつまでも学ぶことができる学習の場と機会を提供しています。

2015年度後期 入学者募集

入学志願書受付期間　〈Ⅳ期〉10月1日～10月15日

京都
佛教大学通信教育課程

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96　TEL（075）491-0239　http://www.bunet.jp　佛大通信　検索